

船橋市立医療センターNews No.13

●発行年月日/平成24年7月1日 ●編集/船橋市立医療センター広報委員会 ●発行責任者/院長 高原 善治
〒273-8588 船橋市金杉1-21-1 ☎047-438-3321(代) <http://www.mmc.funabashi.chiba.jp/>



「夏の風景」(富良野) 当院職員撮影



チームで行う医療 — 重度外傷センター —

船橋市立医療センター院長 高原 善治

医学の進歩は著しいものでありますが、その結果の一つとして細分化が進み高度の知識・技術をもった専門グループの形成が起こってきました。一方で高齢化社会を迎え、患者さんがかかえる疾病も単一のものだけではなく複雑化してきています。現在の多くは内科、外科、小児科といった専門に区分された中で医療を行っています。しかし、従来の診療区分の枠を越えたチームで行う医療が必要となってきています。当院では、平成21年に循環器医療として循環器内科、心臓血管外科、リハビリテーション科がチームを組み、心臓血管センターを発足させております。また、がん緩和ケアに携わる職種が集まり行っている「がんサポートチーム」も活動しています。このほど、より多くの診療科がチームを組まなければ処置が困難な重症の多発外傷に対して、救急医が中心となり重度外傷センターを設立しました。この疾患に充分な対応をするためには、院内の全ての診療科の協力が必要となります。また、緊急性が非常に高いことも重要な点です。これらをまとめ円滑に運営していくために勉強会や話し合いがもたれ、いよいよスタートとなりました。これらのチームは医師を中心として看護師、薬剤師、その他の多くの職種の協力も欠かせません。各診療科のもつ高度な医療レベルと科や職種を超えた体制が良好な結果をもたらすと考えられ、チームで行う医療を推し進めていきたいと思っております。

目次

院長あいさつ.....	1	橋野副看護局長が看護功労賞を受賞!!	5
重度外傷センターを設立しました!!	2~3	臨床検査科 長野則之主任技師が	
院内トリアージを実施.....	3	小島三郎記念技術賞を受賞!!	5
診療科紹介.....	4	当院における地域医療連携.....	6
福澤茂 臨床研修部長が日本心血管画像動態学会		第9回 救急医療/看護師(正規・パート)募集	7
最優秀研究賞を受賞!!	4	外来担当医師一覧表.....	8

重度外傷センター を設立しました!!

救命救急センター長 境田 康二
副部長 水嶋 知也

外傷（がいしょう）とは、ケガ（怪我）のことを指します。また、外傷は刃物で切ったような鋭の外傷から、交通事故や高い所からの落下などの鈍的外傷など様々です。さらに、単純に一カ所だけ骨折している患者さんから、一人で複数の箇所に損傷を負った多発外傷と呼ばれる患者さんもあります。例えば、交通事故で脳挫傷（脳が損傷している）、多発肋骨骨折（複数の肋骨が骨折している）、腹腔内出血（内臓などの損傷によっておなかの中で出血している）、大腿骨の開放骨折（大腿骨が折れて露出している）がある場合、これが一人の患者さんで起きているのですから重症である事は容易に想像出来ると思います。このように多発外傷の患者さんは非常に重篤な状態です。

軽症の外傷患者さんであれば、損傷のある部位の外科系の診療において治療します。しかし、多発外傷の患者さんは非常に広い分野にわたり高い専門性と技術を必要とするため、多くの専門家が在籍する病院でないと対応が難しいというのが実際です。さらに重症な多発外傷の患者さんは個々の専門家の治療も重要ですが、それぞれの緊急性や重症度を検討しつつ全身管理を行いながら、正しい順序で治療にあたらないと助かりません。「木を見て森を見ず」にならないように全体を統括管理することが不可欠となります。

当院では、救急医、麻酔科・集中治療科が全身管理を行いながら、多発外傷部位を担当する各診療科が治療に関与するという連携を図ることで、今まで以上に重症な外傷患者さんを積極的に受け入れて行くよう、平成24年7月に「重度外傷センター」の設立に至りました。これは、この地域の重症な外傷患者さんは何とかこの地域で救命していこうという病院スタッフの思い

からです。

救命救急センター救急医、麻酔科・集中治療科をはじめ外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、呼吸器外科、心臓血管外科などの外科系診療科、また放射線科、リハビリテーション科など、それぞれの専門家が集まって「ひとつのチーム」となり、重症外傷患者さんの初期診療、手術治療、全身管理を行っていきます。

健康な人だけがケガをする訳ではありません。持病がある患者さんもあります。また、小さなお子さん、妊婦さんの場合もあります。その場合は当然ですが内科、小児科、産婦人科などの協力を得ながら治療を行います。これが出来るのも当院の規模だからです。

また、重度外傷センターの取り組みとして患者さんの治療にとどまらず、病院全体における外傷診療の質を向上させるように努力していきます。具体的には、院内職員での検討会（外傷カンファレンス）を開いて専門分野や初期診療の知識や問題点などを全体で共有し、より良い対応が出来るようにして行



きます。また、医師や担当部署の看護師などを対象に外傷初期診療講習会や勉強会を開催するなど、院内教育も徹底していきます。

最後になりますが、現在、当院には外傷に限らず毎日非常に多くの患者さんが来院し、その診療を担っている事情からICUや救急病棟の入院ベッド、緊急手術の対応、救急患者受け入れにも限界があります。周囲の一般病院では対応できない重症な外傷

患者さんの診療を優先させるためにも、すべての外傷患者さんを受け入れて診療していくことは残念ながら難しい状況です。医学的に軽症と判断された場合や即日緊急での治療は必要ないと判断された場合、治療後に長期の療養が必要な場合などは他の医療機関に診療をお願いすることがあります。地域の救急医療向上のため、スタッフ一同頑張っていますので、皆様のご理解、ご協力をお願いします。

TOPICS

院内トリアージを実施

救命救急センターでは、救急外来に来院された患者さんへ診療前にトリアージを開始しました。

トリアージとは、患者さんの緊急度・重症度を判断し、より状態の悪い患者さんから優先して診察する方式です。

トリアージは、医師または看護師が行い、予め決められた基準に従って、緊急・準緊急・軽症に区分します。



診療前に患者さんの状態を判断している様子

救急外来を受診される皆様へのお願い

- 患者さんの状態や救急車の受け入れ状況によって、順番が入れ替わり待ち時間が長くなる場合があります。
 - お待ちになっている間も継続して観察をしていきますので、ご安心ください。
- 皆様のご理解とご協力をお願い致します。



TOPICS

8月1日にバスロケーションシステムを導入します ～B館1階 待合室の大型モニタにバス運行情報を表示～



医療センターでは、平成24年8月1日より、バスの遅れなどの運行情報を大型モニタにリアルタイムに表示できる、バスロケーションシステムを、主要駅やバス停以外では、市内で初めて導入します。

バスの到着時間が確認できるため、バスが到着するまでの間、暑さや寒さ、風雨など避けて建物内でバスを待つことができるほか、売店を利用するなど、待ち時間を有効に活用することができるようになります。

診療科紹介

形成外科

形成外科は名前が似ているせいか、整形外科（骨、関節、脊椎などの外科）と混同されることがあります。形成外科は皮膚、皮下組織などを主に扱う科ですが、顔面の骨折を含めた外傷、手指の腱、神経などの手術も行っています。その他には、切除が必要な皮膚、皮下組織の腫瘍、巻き爪の処置、熱傷なども形成外科で診療をしています。

現在のところ、月曜日と木曜日が手術日のため、外来は火曜日、水曜日、金曜日に行っています。



薬丸 洋秋 部長

形成外科では、救命救急センターと一緒に、多発外傷や、手、腕などの外傷、熱傷などの患者さんを積極的に受け入れて手術を行っています。血管、神経の損傷では顕微鏡を用いて手術を行い、切断指の再接着も受け入れています。当院の形成外科では健康保険の適応とならないような、美容のみを目的とした手術は行っていませんので、ご了承ください。

形成外科のスタッフは2名のみですが、今後も外傷救急などに力を入れて診療を行っていきたいと思っています。

福澤茂 臨床研修部長が 日本心血管画像動態学会 最優秀研究賞を受賞!!

福澤茂臨床研修部長（循環器内科副部長）が、2012年1月27～28日に名古屋で開催された第22回日本心血管画像動態学会において、「II型糖尿病患者における無症候性心筋虚血判定：CT冠動脈カルシウムスコア（CAC）とアデノシン負荷心筋血流SPECT（MPS）によるリスク層別化」と題した臨床研究を報告し、Best Research Award（最優秀研究賞）を受賞しました。



受賞した福澤部長は、「日常診療では、患者さんの心臓病の予後を改善していくために、できるだけ負担の少ない検査をどう生かしていくかが大事です。その中で、多くの患者さんのご協力で積み重ねた貴重なデータから診療に役立つ知見を得られ、それが評価されたことは光栄です。これからも、臨床から学んだ大事な経験を生かし、患者さんの予後改善を見据えた研究を継続し、よりよい心疾患治療を提供できるように努力したいと思います。」と新たな決意を述べました。

※この「医療センター News」のバックナンバーは当院ホームページでご覧いただけます。

橋野恭子副看護局長が 看護功労者千葉県知事賞を受賞!!

橋野恭子副看護局長が看護功労者千葉県知事賞を受賞しました。受賞した橋野副看護局長はその喜びと今後の抱負を次のように語りました。

「大変光栄です。昭和50年に助産師として助産・看護の世界を歩み始めてから現在（当院勤務）まで35年余りが経ちました。助産師として、看護教員として、臨床現場の看護管理者として、多くの方々に様々な形で支えられ、多くの学びと看護の喜びを与えていただいたからこそこれまで歩み続けられ、今回の受賞に結びついたものと感謝しております。私が就職した時代に比べ、現在の医療は、ますます高度化・複雑化し、社会は少子高齢化・核家族に拍車がかかり対象のニーズも多様化しています。これに対し、看護職は対象の安全を図り、苦痛を和らげ、個別のニーズに応じた看護を提供するために、一層専門的知識と根拠に基づいた技術の習得と心の寄り添う対応が求められています。今後は、助産師時代の「妊産婦さんが、家族とともに主体的に自立して出産育児ができるような関わり」や、教員時代の「はぐくみ育まれることの大切さ」、看護管理における「先見性と創造性を持って変化を起こすこと」などの学びや経験を基に、もう少し看護の道を精進し、社会貢献していきたいと思っております。」



臨床検査科 長野則之主任技師が 小島三郎記念技術賞を受賞!!

臨床検査科の長野則之主任技師（医学博士^{*}）が、平成24年度小島三郎記念技術賞を受賞しました。本賞は黒住医学研究振興財団より元国立予防衛生研究所長故小島三郎博士の遺徳を記念して創設されたもので、医学検査研究領域における最も権威と歴史のある賞とされています。受賞業績は「B群レンサ球菌の病原性解析とペニシリン低感受性の機序及び疫学に関する研究」について、海外の学術誌に掲載された複数の論文が評価されたものです。



B群レンサ球菌は産道感染により新生児に髄膜炎等の重篤感染症を起こしますが、その細菌の表面に存在するある種の蛋白質が感染症の発症と関連することを明らかにしました。また、本感染症の治療薬としてペニシリンがこれまで用いられてきていますが、この薬剤に感受性が低下した細菌が存在すること、さらにはその薬剤耐性に関わる因子を世界で初めて明らかにしました。この研究は新生児感染症治療や妊婦の分娩時予防投与における治療戦略に影響を与える可能性があることから、米国臨床微生物学会で注目すべき論文として取り上げられました。

長野主任技師は国立感染症研究所の協力研究員も兼ねており、今後も感染症の診断や治療に少しでも貢献できるような研究に邁進したいと語っています。

^{*}長野主任技師は、医学博士を取得しています。

案内や図書の整理などの病院ボランティアを募集しています。詳しくは、医事課まで。

当院における地域医療連携

～地域医療連携室の取り組み～

地域医療連携室長 多部田 弘士

地域医療連携室がどこにあるか知らない方もいると思いますが、E館1階の玄関に入ってすぐ右にありますので、何か相談事がある時は気軽においで下さい。

改めて簡単に当院の地域医療連携室を紹介しますと、医療連携福祉センターとがん相談支援センターの2部門からなります。スタッフは室長（多部田）、副室長（三上）、看護師（石川）、MSW（鶴田、米井、後藤、平川、佐藤）、事務（本田、山村）ですが、新たに4月から退院調整看護師（稲垣）が仲間に加わりました。これにより、患者さんがこれまで以上にスムーズに退院の日を迎えられるようになって期待しています。また、6月からMSW（田中）も1名加わり、新たな戦力となっています。

私たちの仕事は色々ありますが、一言で言えば患者さんや家族の方が安心して当院で診療が受けられるようお手伝いをすることです。具体的には、受診の仕方から始まり通院中、入院中あるいは退院してからの様々な問題（病気について、金銭的なこと、仕事のこと、家族のこと、精神的な悩み、退院後の自宅療養・社会復帰の準備、転院など）について一緒に考え、より良い解決策を見つけられるようアドバイスするこ

とです。我々スタッフだけでは解決できないことも多いため、かかりつけ医やケアマネージャー、訪問看護ステーション、市の担当者などと相談しながらチームを組んで活動しています。

今年の活動の重点目標の一つに地域医療連携の強化があります。平成21年度から開始した連携医制度を、今後は連携の輪を広げ歯科医師会の先生方にも参加して頂ければと考えています。さらに、病診連携と共に病病連携も重要であることから、病院間の連携システムを作ることができないものかと考えています。また、年に何回かは連携医同士が情報交換をしたり、親睦を深める機会を設けたいと計画しています。

もう一つの重点目標は、退院調整システムを構築し、軌道に乗せることです。退院調整看護師が中心となり入院時から直ちに退院に向けた準備を開始することにより、患者さんは何の不安もなく入院治療に専念できる訳です。まずはA6病棟を対象に活動を始めますが、徐々に守備範囲を広げて行くつもりです。

当連携室は皆一丸となって地域医療連携を推進することにより、患者さんがより良い医療を受けられるよう頑張りたいと思います。



当院は省エネに取り組んでおります。ご協力お願いいたします。

第9回

救急医療

救急医療における代謝内科

代謝内科部長 岩岡 秀明

糖尿病の救急医療で重要な病態は以下の2つです。

1) 低血糖昏睡

インスリン注射や一部の経口血糖降下薬を使用している患者さんが、他の疾患（風邪や急性胃腸炎など）で食事が摂れないときに、いつも通りの量を使用した場合、またインスリンの量や薬の飲み方を間違えた場合は、血糖値が急速に低下して、重症な場合は昏睡も含む意識障害になります。通常60mg/dl以下の血糖値を低血糖と呼びます。しかし、普段から高血糖の患者さんは、もっと高い血糖値でも低血糖症状（気分不快、冷や汗、動悸、ふるえなど）が出現します。

これらの症状が出現したときには、すぐにブドウ糖（もし無い場合には砂糖やジュース）を摂取してください。

低血糖は予防も重要です。食事を摂れない時のインスリンや薬の量の減量について、普段から主治医とよく相談しておきましょう。

また、患者さんのみならずご家族も低血糖についてよく知っておくことが重要です。意識障害があり、ブドウ糖やジュースを摂れないような場合には、すぐに救急車を呼んでください。

2) 高血糖昏睡（ケトアシドーシス昏睡）

主に1型糖尿病患者さんでその発症時、感染症に罹患したとき、インスリン療法の自己中断、暴飲暴食などで起こります。2型糖尿病の患者さんでも起こることがあります。この病態は、極度にインスリンが不足した場合に、血液中に「ケトン体」という酸性の物質が蓄積して、血液は極端な酸性となります。この状態を「ケトアシドーシス」と呼びます。ケトアシドーシスになると、さまざまな臓器の動きが低下すると同時に脳細胞への酸素供給も低下して、意識障害が起こり、進行すると昏睡状態になってしまいます。治療が遅れると生命が危険となる緊急事態です。すぐに救急外来を受診してください。意識障害が進行している場合は、ご家族の方がすぐに救急車を呼んでください。

看護師(常勤・パート)募集 平成24年度随時中途採用・平成25年4月1日採用



救急医療、がん医療、
地域医療に発展的に
がんばっている病院です。
一緒に働きませんか。

今後の試験実施予定

24年 8月18日(土)
10月14日(日)
12月15日(土)
25年 3月 3日(日)

- 資格／看護師・助産師免許をお持ちの方又は、取得見込の方
- 募集／看護師・助産師（常勤・パート）
- 休日／4週8休制（パート職員の場合は、勤務日数・時間の相談に応じます。）

※詳細は当院ホームページ（<http://www.mmc.funabashi.chiba.jp/index.html>）をご覧ください。総務課庶務班までお問い合わせください。

※看護職を対象とした病院説明会を開催しています。当院ホームページをご覧ください。

公開医療講座

第11回 「子宮頸がんワクチンのお話 ～子宮頸がんワクチンをお子さんに勧めるために～」

日時：7月12日(木) 午後2時30分～3時30分

講師(予定)：斉藤俊雄(産婦人科)

会場：市民文化創造館(きららホール)

定員：当日先着200人

費用：無料

問い合わせ：医事課

ぜひご参加
ください

外来担当医師一覧表

平成24年7月1日現在

		月	火	水	木	金	備考
内科	新患	石神 智行 鈴木 泰俊 小林 照宗	前川 祐子	下山 立志	関根有希子	[交替医]	新患月曜の第1・3鈴木、 第2・4・5小林 消化器の(火)の水本、(水)の 安藤、(木)の関、(金)の小林 は予約患者のみ
	呼吸器	中村祐之・山岸一貴	徳田敦子・中村純	多部田弘士・山岸一貴	中村祐之・中村純	多部田弘士・徳田敦子	
	消化器	水本 英明	水本 英明 関 厚佳 高城いぶさ	安藤 健 小林 照宗	水本 英明 関 厚佳	小林 照宗 安藤 健 今関 洋	
	代謝	岩岡 秀明	下山 立志	鶴岡 明	下山 立志	岩岡 秀明	
ター 心臓血管セン	循環器内科 予約	杉岡 充爾 稲垣 雅行	福澤 茂 沖野 晋一	前川 潤平 稲垣 雅行	杉岡 充爾 市川壮一郎	福澤 茂 池田 篤史	心臓血管外科の手術の相 談は、循環器内科でも応 じます 午後1時30分から ※第1・3・5高原 ※第2・4 茂木
	新患	前川 祐子	[交替医]	沖野 晋一	池田 篤史	黒岩 信行	
	心臓血管外科	[手術日]	高原善治・茂木健司	[手術日]		[手術日]	
緩和ケア内科				[交替医]	[交替医]		午前9:00～ 予約患者のみ
精神科		宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦		新患は事前予約が必要
小児科		木谷 豊 小林 雅代	佐藤 純一 坂井 美穂	丹羽 淳子 奥主健太郎	木谷 豊 藤田真祐子	[交替医] 坂井 美穂	
外科		丸山 尚嗣 松崎 弘志 宮崎 彰成 [交替医]	渡辺 義二 夏目 俊之 佐藤やよい [交替医] [手術日]	丸山 尚嗣 松崎 弘志 山本 悠司 [交替医] [手術日]	田中 元 齋藤 洋茂 [交替医] [手術日]	唐司 則之 松崎 弘志 宮崎 彰成 [交替医]	(月)の松崎、(火)の丸山は 午前のみ
整形外科		[交替医] 金塚 彩 [手術日]	池之上純男 高瀬 完 [交替医]	三村 雅也 鮫田 寛明 新保 純	[交替医] 遠藤 純 [手術日]	[交替医] 橋本 瑛子 [手術日]	予約のない患者は (月)・(木)・(金)
形成外科		[手術日]	薬丸 洋秋	薬丸 洋秋	[手術日]	坂本奈津紀	
脳神経外科		唐澤 秀治 [交替医] 鈴木 健也	[交替医] 唐澤 秀治 [手術日]	畑山 和己 根本 文夫 唐澤 秀治	唐澤 秀治 安間 芳秀 [手術日]	内藤 博道 唐澤 秀治	
呼吸器外科		内田 修 一ノ瀬修二	[手術日]	内田 修 一ノ瀬修二	木下 孔明 [交替医]	[手術日]	(木)は内田・一ノ瀬が交替
皮膚科		宮川 健彦 中川誠太郎	宮川 健彦 中川誠太郎	[手術日]	宮川 健彦 中川誠太郎	[交替医]	予約のない患者は (月)・(火)・(木)・(金)
泌尿器科		武田 英男 [手術日]	佐藤 信夫 黄 和吉	[交替医] [手術日]	佐藤 信夫 五島 悠介	佐藤 信夫 滝澤 一晴	
産婦人科		鈴木 康伸 斉藤 俊雄	三森 麻子 [交替医] [手術日]	斉藤 俊雄 佐川 泰一 [手術日]	鈴木 康伸 林 敏	林 敏 大淵 紫 [手術日]	
眼科		上原 七生 谷口 有子	松枝 美文 [手術日]	松枝 美文 [手術日]	上原淳太郎 上原 七生	上原淳太郎 谷口 有子	予約のない患者は (月)・(木)・(金)
耳鼻いんこう科		[手術日]	大塚雄一郎 福本 一郎	大塚雄一郎 福本 一郎	[交替医] 派遣医師 [手術日]	大塚雄一郎 福本 一郎	休診(月)
放射線科		青柳 裕			原 竜介		新患は事前予約が必要
麻酔科		境田 康二	境田 康二	境田 康二	境田 康二	境田 康二	午前9:30～11:00 予約患者のみ
歯科口腔外科		村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	
特 殊 外 来	女性専用(内科)	大淵 紫		古池 織恵			予約患者のみ
	腎臓内科(内科)		[交替医]				午後1:30～ 予約患者のみ
	神経内科(内科)			澤井 摂			午後1:00～ 予約患者のみ
	スプリント外来(心外)		桜井 学				午後1:30～
	ペースメーカー外来			稲垣 雅行			午後1:00～
	小児循環器(小児)	佐藤純一・[交替医] 奥主健太郎	松本 歩美	佐藤 純一			午後 予約患者のみ (火)は第2・4
	小児神経(小児)				林北見・牧野道子		午後 予約患者のみ 月1回
	小児腎臓(小児)				秋岡 祐子		午後 予約患者のみ 月2回
	小児外科(外科)				中田 光政		
	脳神経内科(脳神経外科)			横田隆徳(3ヶ月に1回)		橋本 祐二	午前9:00～ 予約患者のみ
ペリクニカ(脳神経外科)		唐澤 秀治		唐澤 秀治			
膀胱外来(泌尿器科)				北村 温		第3木曜日の午後	

担当医師は、状況により変更することがありますので、ご了承ください。